都市に浮かぶ幼稚園(2)

一人だけの年少組

紙谷　千恵子

平成三年四月。奈保子は中央区立京橋幼稚園に入園しました。昭和六十三年、中央区学校適正配置等審議会より答申が出されて以来、統廃合問題を抱えている当学園は、遂に今年度小学校は新入学児童がない淋しいスタートとなり、幼稚園は娘一人だけの入園でした。

区条例により、当園は昨年から複式学級で、娘は年長組の四名と一緒に過ごしました。園長（学校長と兼任）、主任、担任と三名の職員編成で、先生方には本当に御苦労の多い一年間だったと思いますが、娘にとっては幸福に満ちた日々でした。某先生に「義理で奈保子ちゃんを入園させたんじゃないかって心配していたのよ。」と言われた事もあります。私・姉・弟・そして息子も通った、縁(ゆかり)の深い幼稚園です。私の教育実習園でもありました。しかし、可愛い我が娘を義理で入園させる訳がありません。多少の意地はあったかも知れませんが……。確かに客観的にみれば、同年齢の友達がなく、年長組は全員男児。不安の材料は無きにしもあらず。でも〝多過ぎるより少な過ぎる方がずっといい〟〝少ない

マイナス面もあるかも知れないが、プラス面もたくさんある筈〃私自身、小規模園で勤務した六年間で確信した事もあって、周囲の心配をよそに、迷う事なしの決断でした。

毎日の園生活で印象的だった事は、幼稚園の先生だけでなく、小学校の先生、主事さん達全員に暖かくつつまれていた事です。この事は娘だけではなく、学園の子供達皆に言える事でした。学園中が大きな家族のようでした。そして、一人一人の存在が認められ、安定しているからなのでしょう。〃一番小さい妹〃奈保子は、皆に可愛がられてのびのびと育ちました。先生にも子供達にも、心のゆとりがみられました。

園児は五名でしたが、実に良くかかわり、又自然な形で小学生と交流していました。我家のように、八歳半も離れた二人兄妹の娘にとって、何より嬉しかった事と思います。さらに、担任泉先生の、暖かい人柄の良さが、何にもまさる〃素晴らしい環境〃でした。

少人数の良さを生かした保育をめざし、新しい試みもたくさんありました。中央区初の〃お泊り保育〃もその中の一つです。夏休みの夕方から、リュックサックをしょって幼稚園へ。皆で銭湯に入り、カレーパーティー、花火大会、園長先生のマジックショー。先生方の見守る中で、五人揃って楽しい夢を見た事でしょう。親子遠足ならぬ、婆孫遠足（失礼!!）もあり、浅草の〃ほおずき市〃へ。一年間の遠足回数は、何と十五回。誕生会その他で作ったお料理は十二品目と、泉先生の言葉をお借りすると「ギネスブックに載せたい程」豊かな経験が出来ました。娘のお気に入りの一つに〃五人で入るお風呂〃もありました。砂遊びやえのぐで汚れた時、プールで身体が冷えた時等に入るらしいのですが、いつも得意気に報告してくれました。プール遊びもダイナミックでした。何しろ総勢で六十三名ですので、小学校のプールサイドにビニールプールを持ち

込んで思う存分遊びます。学校のプールで泳いだり、ビニールプールを浮かべて船に乗ったり。関東大会決勝出場という輝かしい経歴の持主である先生も子供達も、共にプール遊びを堪能している様子でした。

少人数だと社会性が育たないのではないかとよく言われます。しかし、教育要領の「人とのかかわりに関する領域」のねらいや内容と照合してみても、

▲　みんなで力をあわせてつくった船にのって

園児数の多少には関係ないように思えてなりません。尤も園側がマイナスにならない様、最大の努力をして下さった結果かも知れませんが。又少人数だと教育効果があがらない。この事も答申が出て以来何回もくり返し聞いた言葉です。私は聞く度に、教育効果があがらないのではなく、行政側にとって教育効率が悪いだけだと思っていました。この一年間を通して、何と子供達にとって〝幸福な〟事。外部から見ると〝贅沢な〟事だったのではないでしょうか？

しかし六月のＰＴＡ総会で、来年度統合やむなしという結果になってしまいました。数年間の統廃合問題で、行政に対する不信、怒りは山積していました。しかし家族とも話し合い、悩み、最終的には娘の事を純粋に考え〝統合先の幼稚園に転園〟という結論を出しました。親の方の迷いがなくなってから、時期を考え、冬休み中のある日、娘に話をしました。「きく組さんになったら、うめ組さんのお世話いっぱいするんだ。」と年長組になる日を心待ちにしている娘に、心の中で謝りながら……。紙面には書ききれないほどたくさんのやりとりがあって、やっと転園する事は納得したのですが、お友達が行く小学校と同じ幼稚園に行きたいと言うのです。驚いた事に、幼稚園で友達にも相談したらしく、「大ちゃんが、そんなに迷ってないで、地下鉄に乗って行ってみればっていってたよ。」と。親子で地下鉄に乗って行ってみました。仲好しの一歳下の友達（保育園児）は、来年どっちの学校へ行くのか、本人や親に電話で確かめたり、いろいろ悩んだ末、やっと統合先の京橋朝海幼稚園に行く、結論が出たのは、二月に入ってからでした。私が一度だけ後悔したのは、この時期でした。

ところが、娘が自分で結論を出した数日後、祖母が横綱千代の富士の〝断髪式〟のテレビ中継をみていると、そばで娘が「あのお相撲さんたら、自分でやめるって言ったのに、泣いたりしておかしいよ

ね。奈保ちゃんは、朝海に行っても泣かないよ。」と、言ったと聞いて、私は改めて娘の成長に驚きました。そして、悩ませてしまったけれど、無理に大人の結論を押しつけないで良かったとおもいました。四歳にしてこの意志、この感情。娘に教えられる事の多い数か月でした。

三月。修了式前には、毎晩のように家で式のリハーサル。そして私は（勤務先の修了式と重なり）残念ながら出席できなかった当日。「奈保子ちゃんのソロが講堂中に響き渡っていた（私の友人の弁）」そうです。そして閉校・閉園式では、修了児を送ったあと、たった一人の在園児として、先生と共に園旗を区長に納め、小学校八十二年の歴史と共に、幼稚園六十年の幕を閉じたのです。平成四年三月二十四日。期せずして、奈保子五歳の誕生日でした。

四月から京橋朝海幼稚園の年長組になった娘は、毎日元気に通園しています。十九名の組に変わり、多少の戸惑いはあるでしょう。でも当園の先生方が、春休みを返上し、娘が使っていた懐かしい遊具や、可愛がっていた小鳥、包帯をまいた古いお人形まで運んで下さいました。又先生方の離任式の時には、娘が皆に京橋幼稚園の歌を教え、皆で歌って下さったそうです。統合と唱えながら、園名が変わらないということで〝開園式〟もしなかった行政に対する不信は、最後まで拭えませんでしたが、先生方の細やかで暖かい配慮に包まれて、楽しい園生活再開です。担任中川先生の、「（一般的に言われている）少人数でのマイナス面はみられませんよ」とのお話に、一安心しています。現在のところ、後遺症といえば、女児よりも、男児と遊ぶ方が好きな事くらいでしょうか？

最後に、私の友人が、京橋学園ＰＴＡの、最後の広報に載せた、メッセージを紹介します。（以前、某私立中学の先生をしていた方で、京橋卒業生でもあります。）

＊

京橋小学校・幼稚園がこの銀座の地から消えることは、この地域にとって大きな損失のように思われます。現在の日本は効率的な事がベターである、という考えで動いているようです。少人数の教育は子供同士が競争せず、能力が向上しないと平気で信じている人が多くいます。しかし効率の面からのみ世の中を建て替えてきた結果、現在、世界中から「自分勝手だ。」と、非難される日本が作られたのでした。

子供達にとって、特に低学年の子供達にとって、短い時間でしたが、真の「ゆとり」の教育を受けられたのは幸せでした。これからの人生で、一つの重要な土台となって、必ず何かの役に立つと思います。

＊

住民の生活を守る行政が立案した今回の統合が、最後まで、子どもも親も望まなかったのに、対等合併とはほど遠い形で施行された今。行政の真意は、学園の〝跡地〟が証明すると思います。学園は守りきれませんでしたが、奈保子にとって、この一年間が貴重な日々であった事が、せめてもの幸いでした。そして、この統合にかかわった総ての人達が、動揺し、悩んだ事実をここに記します。

（港区立高輪幼稚園）